



発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

星溪園を活用した社会実験



令和 7 年 9 月 6 日～10 月 26 日にかけて、熊谷市指定文化財記念物・名勝「星溪園」で、社会実験が実施され、園内でのカフェの開設や池での雲海ミストの演出が行われました。この社会実験は、星溪園の文化財としての保存を行った上で、より多くの市民が星溪園に親しむことができるようにすること、そしてまちづくり活動と連携しより地域の魅力向上につながるような公園としての活用の仕方考えることを目的として、市商業観光課により実施されたものです。

園内の建物「松風庵」に開設された星溪園ガーデンカフェでは、希少なパナマゲイシャのコーヒーや熊谷農業高校の生徒が育てた果実を使ったソーダなどが提供され、3,476 人の来客がありました。また、園内の「玉の池」では、30 分ごとに雲海ミストが噴射され、水面に白くやわらかな霧が広がる幻想的な空間が演出されました。

これらの、実施期間中には、星川通り沿いで、時速 20 キロメートル未満で公道を走ることができる電動車を活用した移動サービス「グリーンスローモビリティ」の試験的な運行も実施され、多くの来園者でにぎわいました。(山川愛)



雲海ミストの様子

「踊る埴輪」知名度アップ事業



今年度実施した、「踊る埴輪」知名度アップ事業の主な取組を紹介します。

- ① 「踊る埴輪」が出土した野原古墳の御墳印の作成・販売
 - ② 解説リーフレットの作成・配布
 - ③ 「踊る埴輪」レプリカの 3D 計測と熊谷デジタルミュージアムでのデータ公開
 - ④ 3D 計測データをもとに、レジン製 1/8 フィギュア制作体験の実施（埼玉県民の日・行田古墳フェスティバル）
 - ⑤ 江南文化財センター夏休み体験企画「踊るはにわづくり」の実施
 - ⑥ 星溪園積翠閣展示室での埴輪絵画展・「踊る埴輪」展の開催
 - ⑦ 直実市民大学・中央公民館における解説講座の実施
- などを実施しました。

当センターでは、引き続き、日本一有名な埴輪「踊る埴輪」が、熊谷市出土であることをアピールする取組を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。(森田)

御墳印「野原古墳」	解説リーフレット	レジン製フィギュア	「踊る埴輪づくり」

市内遺跡発掘情報

上之土地区画整理地内発掘調査(速報)

今年度の下半期の発掘調査は、諏訪木遺跡で12月から3月までの予定で調査しています。

今回は調査箇所の大部分で河川跡の痕跡が確認され、その流路は、荒川の支流であることと、西から東へ向かって流れていたことが推測されます。河川跡内では、多量の土師器、須恵器などの土器集積地点(墨書土器倉)や、木製品の検出がありました。



そのうち、特筆すべき遺物として、木製品の「扉」が挙げられます。この木製品は観音開きの扉の片側で、長軸120cm、短軸35cm、厚さ8cmで一枚板からすべて削り出して作成されたもので、把手と開け閉め用の軸も確認できます。作成時期は、周辺の出土遺物から古墳時代前期(4世紀ごろ)と考えられ、検出例があまりないことから大変貴重なものです。(腰塚)



木製扉出土状態

上之土地区画整理地内遺跡整理調査について

上之土地区画整理地内には、上之古墳群、諏訪木遺跡、中西遺跡、箱田氏館跡、藤之宮遺跡、前中西遺跡など多くの遺跡が所在しており、発掘調査を行った遺跡については、整理調査を行い、その成果を調査報告書として刊行しています。

整理調査では、発見された遺構(竪穴住居跡など)の図面整理やトレース、遺物(土器や石器など)の洗浄、注記、接合、実測、トレース、写真撮影などを行った後、版組、原稿執筆、編集を行い、冊子として刊行します。

上之土地区画整理地内の遺跡を含む本市がこれまで刊行した調査報告書は、熊谷市立江南文化財センターHP「熊谷デジタルミュージアム」内「読書室」

(<https://www.kumagaya-bunkazai.jp>)において閲覧することができます。興味のある方は、ぜひご覧ください。(松田)



土器の接合作業

連載 くまがやの古墳群

③ 天神山古墳群 —未だ調査されていない古墳6基が残る古墳群—

天神山古墳群は、江南地区の御正新田、和田吉野川の右岸の、荒川を北に望む江南台地の北東縁部、標高41~44mに立地します。

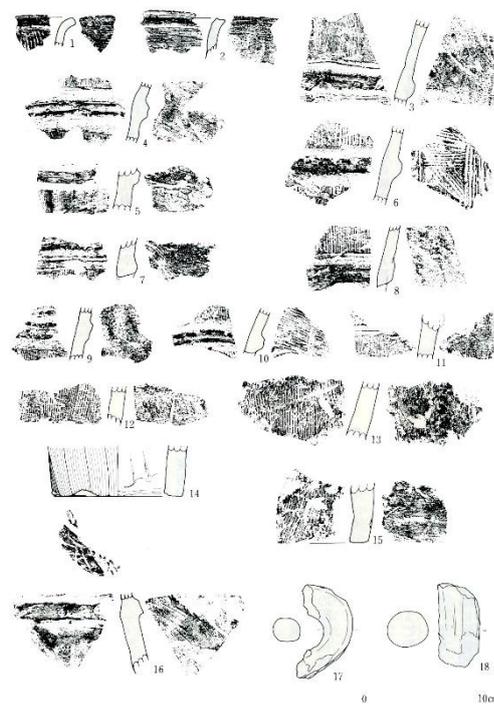
支流の河川を挟んだ対岸の同じ台地上には、古墳時代前期の方形周溝墓群、古墳時代後期の古墳が確認されている万吉下原古墳群が立地しています。

現在6基の古墳が確認されており、台地の東端に4基(第1~4号墳)、西に少し離れて2基(第5・6号墳)あり、いずれも円墳です。

6基のうち第1号墳は、当古墳群の中心となる古墳で、直径30mの大型円墳です。第3号墳は直径20mの円墳で、凝灰岩の切石が露出しており、これにより埋葬施設は横穴式石室と推定されます。

いずれの古墳も調査されていませんが、周辺からは、円筒埴輪、人物や馬形の形象埴輪のほか、須恵器甕の破片が採集されており、図の最下段左から、人物の腰部、腕部、美豆良(みずら)(男性の髪型)とも考えられる形象埴輪で、そのほかは円筒埴輪です。

これらから、当古墳群は6世紀後半代の築造と推定されます。(吉野)



天神山古墳群採集円筒埴輪・形象埴輪実測図

◇熊谷市誕生20周年記念事業 第18回地域伝統芸能今昔物語

令和7年11月23日（日・祝）、伝統芸能を次世代に継承することを目的に、熊谷市立江南総合文化会館ピピアホールを会場に「熊谷市誕生20周年記念事業 第18回地域伝統芸能今昔物語」を開催し、市指定無形民俗文化財保存団体5団体、一般芸能5団体、賛助出演1団体計11団体による共演があり、児童生徒を始めとした多くの若手の出演がありました。当日は、552人もの観客が鑑賞し、無形の文化遺産の更なる保護や情報発信を行うことができました。収録した映像は記録保存するとともに、動画共有サイト「YouTube」での公開配信を行っています。（山川愛）



市指定無形民俗文化財「東別府祭ばやし」東別府祭ばやし保存会

◇古代祭祀体験イベント

体験イベントは、今回で3回目となり、昨年度に引き続き深谷市との合同で令和7年11月8日（土）に実施しました。

参加者は15名で、古代衣装を身にまとい、職員に引率され、体験場所となる西別府祭祀遺跡の水辺で、「玉串奉奠（たまぐしほうてん）」や「形代（かたしろ）流しの儀」などの儀式に参加し、実際に古代の湧き水に対する祭祀を体験してもらいました。

参加者からは、発掘体験もやってみたいとの声があったことから、今後のイベントの参考にしたいと考えています。（腰塚）



子どもたちによる「形代流しの儀」

◇「みんなで歩こう！中山道」事業

令和7年10月の毎週土曜日に、体験イベント「みんなで歩こう！中山道」を実施しました。各日ともたくさんのお申込をいただきありがとうございました。実施にあたって、熊谷観光ボランティアガイドの会くまがい探偵団の皆様にご協力いただき、道中ガイドを交えながら旧中山道を歩きました。7・8月開講の講座「みんなで学ぼう！中山道」とあわせてご参加いただいた方も多く、講座で紹介されていた場所だ、というお声も耳にしました。

令和8年度も、中山道関連講座の開講と体験イベントの実施を予定しています。皆様のご参加をお待ちしております。（小林）



荒川土手の「決潰の跡」にて

【文化財探訪・わが街遺跡巡り】—東山道武蔵路と御霊の渡し—

古代律令制において、武蔵国は宝亀2(771)年までは東山道（とうさんどう）に所属していました。このため、上野国（こうずけのくに）新田駅（群馬県太田市）と武蔵国府（東京都府中市）とを結ぶ東山道武蔵路（むさしみち）が整備され、この道路が熊谷市域を南北に通っていたと考えられていますが、まだ市内遺跡の発掘調査によってこの道路の存在を示す遺構は見つかっていません。

上奈良に所在する豊布都（とよふつ）神社は、昔の荒川の流れが作った幅100m足らずの流路跡に面する河岸にあります（写真）。この神社は江戸時代まで「御霊社（ごりょうしゃ）」と言われ、由緒書きには、かつてこの付近に「御霊の渡し」と呼ばれる渡船場があったと記されています。御霊社前に荒川が流れていたのは奈良時代～平安時代初期と考えられていることから、御霊の渡しの存在をこの時代まで遡らせ、対岸の延喜式内社である奈良神社と合わせて、当時の重要な地であるこの付近を東山道武蔵路が通っていたとする説があります（*）。（山川守）



*木本雅康 2000年『古代の道路事情』歴史文化ライブラリー108 吉川弘文館

文化財コラム 中山道の旅 その4

今回は、旧久下橋があった所から熊谷宿(しゅく)の東端まで足を進めました。では、また旅を続けることとします。

ここからはしばらく国道17号線と同じルートを進みます。筑波交差点を越えて200m程の所に、市史跡「札の辻跡」があります。ここは、当時高札場(こうさつば)と言われ、法令や禁令等を書き入れた高札を掲げる場所であり、その大きさは高さ3.3m、長さ約5m、横幅約2mであったとの記録が残っています。

さらに約200m足を進めると、街道の南側にあった「本陣跡」(市史跡)に辿り着きます。本陣とは、大名や幕府役人、公家等が宿泊や休憩した宿泊施設で、熊谷宿には竹井本陣、鯨井(北石川)本陣と2軒あり、ここは竹井本陣があった場所です。その規模は全国でも最大級のものであり、天保(てんぽう)2年(1831)の記録によると、間口15間(約27m)、奥行は星川まで及び100間を超える(約184m)ものでした。

そして、そのすぐ西には、北にある熊谷寺(ゆうこくじ)へと続く参道があり、ここからは国道17号線を離れ、全国的に珍しいデパート(八木橋百貨店)店内を進むことになります。店舗の東西出入口外の傍には「旧中山道跡」の石碑が、店内には当時の街道の雰囲気を出す熊谷宿の行灯が置かれています。ところで、西出入口付近ですが、熊谷宿の西端に当たる所です。

その先は、入口に旧中山道の説明板がある一番街商店街を進みます。この一番街商店街を通り過ぎると再び国道17号線に出ますが、ここから熊谷警察署のある交差点を約500m過ぎるまでの約1.7kmは、国道17号線を進むことになります。途中の、一番街商店街を出て約500m進んだ所には、中山道が秩父道(秩父往還)と分岐する場所があり、県旧跡「秩父道志るべ」の3基の石標が、当時とはやや南に離れた「かめの道」(旧東武熊谷線の軌道)に移設されています。

今回は、熊谷宿東端から約3.3kmと一気に歩みを進めました。旅は次回へと続きます。(吉野)



市史跡「(竹井)本陣跡」
石標・説明板



八木橋百貨店内を通る
中山道



県旧跡「秩父道志るべ」石標

【「権現坂埴輪窯跡群～昭和39年調査～」展】

江南文化財センターホールで、1月5日(月)から6月30日(火)にかけて、標記の展示を行っています。

今回は、平成21(2007)年に熊谷市へ移管された、昭和39(1964)年に早稲田大学の大川清氏が学術調査を実施した、熊谷市千代に所在する権現坂埴輪窯跡群出土資料を、初めて展示しています。

権現坂埴輪窯跡群は、古墳時代後期(6世紀代)の埴輪窯跡群です。これまでの発掘調査で、埴輪窯・粘土採掘坑・工房跡と推測される竪穴建物跡が確認されており、県北地域に分布する古墳に埴輪を供給していた窯跡であることがわかっています。

昭和39(1964)年の発掘調査では、埴輪窯7基が調査され、円筒埴輪・人物埴輪・動物埴輪などが出土しています。調査事例の少ない埴輪窯跡出土資料ですので、この機会にぜひご覧ください。(森田)



編集後記

AIの進化するスピードは多くの人の予想を超え、私たちの身近な生活の中に入り込んできています。当センターでも、なんとか乗り遅れまいと、展示の解説画像や、偉人のキャラクター化などのソフト面での活用を模索中です。近いうちにその成果を紹介できれば良いのですが・・・。

また、星溪園の新たな活用も始まっています。令和8年度もよろしくお願ひします。(森田)

発行：令和8年3月17日(2026/3/17)

熊谷市立江南文化財センター(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係)
〒360-0107 埼玉県熊谷市千代329番地

Tel: 048-536-5062 FAX: 048-536-4575 Mail: c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp